

「メディアと私」についてのエピソードから

私の出身高校の同期仲間にはメール網があって、同期生の集いの連絡や各同好会の活動報告、個人のエッセイや論文、それに写真などの活発な発信があります。加えてメール管理人の発案で、8年ほど前から毎年テーマを決め、1週間毎にリレー式で順番に発信しています。今年のテーマは「メディアについて」。以下は私の番だった6月に発信した原稿です。仲間以外の方にも参考になるかも、と思いこのページでもご紹介します。

.....

皆さま

順番が回ってきたので原稿を添付します。新聞、テレビ、インターネットでの個人的なエピソードに沿って綴っています。

新聞

政治への角度の違い

高校時代までは、伊那の実家に配達される信濃毎日新聞にときどき目を通していた。東京に出てきてからはずっと朝日新聞を購読、かれこれ半世紀になる。ただし現役時代の職場では、各紙の論調を知るために代表的な全国紙に目を通していた。左から右まで特に政治的なスタンスが違っていることをずいぶん意識させられたものだ。



浅学の独断と偏見では、主要紙では左から右へ朝日、東京、毎日、読売、日経、産経といったところだろうか。幸い公民館と図書館が近いので定年になってからも、ときどきそのロビーで各紙をめくってみるが、現在の安倍首相に関する報道も“こんなにも”と思うほどの違いがある。

3年ほど前に読売新聞の拡張員が自宅を訪ねてきて強力な押しに遭った。その押しとサービス品（缶ビール2ダース）に惹かれて1年間購読した。以来、朝日とほぼ交互になったりしている。

「声」欄への投稿

朝日と毎日は投書欄が充実している。読売は字数が短くて物足りない。購読はしていない他紙にも時に応じて投稿する。採用されるかどうかは「本人でなければ書けない」オリジナル性が求められているようだ。

「料理のページ」



一方、実用的なのは各紙にある「料理のページ」。その日の朝刊を見て美味しそうな料理のレシピがあると「よし、今夜は自分が夕飯を作ってみるよ」と妻に声をかける。定年直後に1年間クッキングスクールに通い100あまりのレシピ（カード）を勉強した（これは定年後の人生を想像以上に充実させてくれた）。

それにこの新聞掲載のレシピが加わりレパートリーが増えた。妻も喜んでおり、ときおり訪ねてくる子供や孫たちから「おじいちゃん料理は美味しいね！」なんて言われるのも嬉しいものだ。

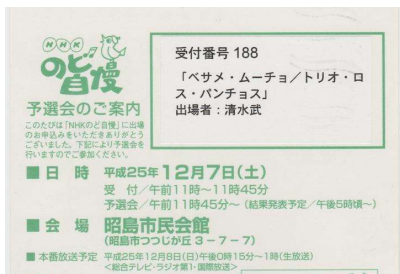
テレビ

「アツモリ」が面白い

テレビはあまり見ないが、妻のしている番組と一緒にすることが多い。毎日の番組ではニュース、天気予報が中心だが、仕事がないときは朝食が終わる頃がちょうど NHK の朝ドラの時間になる。そのまま「アサイチ」番組に引きずられてしまうこともある。

夜はパソコンの作業やラジオの語学番組への取り組み、ギターの練習等があるので、遅い時間の報道ステーションを視聴している。特に最近、この番組のスポーツ報道の最後に出てくる「熱盛」は面白い。熱く盛り上がった野球のスーパープレイの紹介だが、当該選手のうまさに「よくぞ！」と感嘆することが多い。「アツモリ！」との呼びかけも声の調子に工夫と変化をつけていて結構こちらも面白い。

NHK のど自慢の裏話



日曜日に在宅のときは「NHK のど自慢」と夜の大河ドラマにチャンネルを回す。「のど自慢」といえば、5年前に自宅から徒歩 2 分の市民会館で開催されたときに出演を申し込んだ。千人を超える応募者の中から予選会の 200 人に選ばれたが、残念ながら本番出場とはならなかった。歌は日本でもよく知られた「ベサメ・ムーチョ」。メキシコ

の曲なので民族衣装のポンチョとソンプレロをかぶり、スペイン語で歌ったのだが・・・。

今思うに、あのとき「お世話になったメキシコの皆さんに！」と最初に言えばよかったのかもしれない(実際、現役時代に十数回メキシコを訪ねたことがあり、各地でお世話になった日系メキシコ人も多くいた)。なんてたって「のど自慢」は世界に中継されているのだから“国際放送”という番組のPRには大きく貢献したかもしれないのに・・・。



TSUNAMI への驚くべき反響

国際放送といえば、7年前の東日本大震災時の世界の反響には驚いた。津波のあまりの惨状に日本中が愕然としたものだが、日本から送られたテレビ映像を見た海外の人はもっとショックだったようだ。地震のすぐ後から、かつて10年間駐在していたパナマの何人もの友人からメールが入った。どれもこちらの安否を心配してくれているもの。その中の3人は次のように呼びかけてくれた。

「TSUNAMI の惨状を見て驚愕している。もしそちらに住むところがなかったら、我が家の半分が使えるからすぐにこちらに来て身を寄せてくれていいですよ。少なくとも半年くらいは大丈夫だから」。

・・・メールに書かれた内容から想像するに、この地震と津波で日本の国はほぼ壊滅状態になり、相当数が住むところも無くなり生活する場所にも困っている、といった状態でとらえられているようだった。もしかしたら日本のテレビ映像以上の惨状が世界のテレビ画面に映し出されていたのかもしれない。

私は昔の仲間の真心が嬉しく、その善意の申し出に丁寧なお礼と、こちらの実態を伝え

るメールを返信したが、地球の一角の出来事もメディアで即時に全世界に伝わる現代、という時を改めて実感したのだった。

インターネット

ホームページからの広がり



13年前にホームページ「ドン・キホーテの広場」を立ち上げ、毎月更新をしてきた。定年後スペインに留学しその体験を本にして出版した。「定年留学してみませんか？—

—60歳からのアクティブ・ライフのすゝめ—」。本は全国の書店に並びそれなりに求められたが、留学の楽しさや意義をもっとシニアの皆さんに伝えたいと思ったとき、最善の方法はネットを活用することに思いがいたった。

それに、留学から帰国し、半年後に鬱になり地獄のような生活から立ち直って文学紀行を始めたとき、せつかくの世界の名作の舞台の写真やレポートを関係者に分かちたい、といった希望もあったからだった。

私は「ネットを制したところが時代を制する」を胸に、先の定年留学の本や文学紀行、また自分が主張したいことなどを綴ったエッセイをホームページに載せ、毎月、更新もしてきた。「毎月」は大変だったけれど、振り返ってみると半ば自分で自分を強制しながらも、大変な分量の原稿や写真を発信してきたことに気がついた（現在のアクセス 43000）。

さらに海外に住む友人の著作の案内「ニカラグア東洋医学大学物語」や、所属する大学校友会の「昭島稲門会会報」などもページで紹介し役立っているようだ。

ホームページではないですが、この原稿もネット通信の力で皆さまに届いているわけです。メディアの力を改めて実感するところです。

ホームページのURL：<http://donky.la.cocacn.jp/>